

市史講座第1回ミニレポート

4月19日(土)第1回の講座が開かれました。

第1部：「出雲地域における産物の特徴について」(講師：松江工業高等専門学校准教授 鳥谷智文 先生)



現在も島根県には数々の特産品がありますが、江戸時代も同様に、出雲国の各地に特産物がありました。それら産物を相撲番付に見立てた「雲陽国益鑑」という史料があります(『松江市史 近世編5『史料編I』掲載』)。鳥谷先生はこの史料を用い、各産業の地域と特徴について説明されました。産物だけでなく寺社、流通、娯楽に関する事項も記されている点が特徴的です。

鳥谷先生は更に特産物の価値を具体的にするため、「旧松江藩引継雜款」(明治5年に各郡から島根県へ提出された資料)を用い、表にして示されました。この資料と「雲陽国益鑑」を比較したところ、庶民の娯楽の為に作られたものではあるけれど、あながち内容に齟齬のあるものではない、という事が分かりました。また、こうして物が増え豊かになった結果、ごみ捨て場の問題が発生するという事例も紹介されました。

最後に、時系列的な視点から産物をとらえる事、また流通や娯楽など産物以外の価値を数値で示す事を、今後の課題として挙げられました。

第2部：「近世城下町の変遷と松江城下町」(講師：前大阪城天守閣館長 松尾信裕先生)

松尾先生は、まず城下町の町割について横町型プランと豎町型プランの特徴、江戸幕府の町割と豊臣秀吉の町割について、大阪をモデルに紹介されました。

次に全国的な城下町の事例について、織田信長の城下町(清須・小牧・岐阜・安土)、豊臣秀吉の城下町(長浜・大坂・伏見・名護屋・山崎)、秀吉家臣の城下町(佐和山・八幡・水口岡山)などを、地籍図と地形図をもとに町割・城下町のプランを解説されました。

これらの事例と松江城下町の現在の地形図を比較し、当時の姿を良く残していること、領国支配に適した水陸の交通路の結節点を選択して、高い土木技術を用いて建設し、町人地として流通や商工業の発達した集落を城下町に取り込んだ等の共通点を指摘されました。

また、松江城下町を理解する方法として、江戸時代初期の背割下水が現代まで踏襲されている事など、溝のプランを見る方法を紹介されました。松尾先生はこのように、全国的な視点から松江城下町について語られています。

